

# 日本材料学会 疲労部門委員会 疲労に関する表面改質分科会

## 第18回分科会 参加報告

2022年11月4日 修士1年 笠井大剛 学部4年 青木智史

11月4日にヤマハ発動機株式会社 コミュニケーションプラザ(静岡県 磐田市)にて開催された、日本材料学会 疲労部門委員会 疲労に関する表面改質分科会 第18回分科会に参加しました。第18回分科会は、同分科会で推進している3つの研究プロジェクトのうち、「浸炭プロジェクト」に特化した回となりました。分科会では、浸炭処理材の疲労限度推定へ向けたこれまでの研究の成果報告が行われただけでなく、金属疲労・浸炭処理材の知識を共有するための研究討論会や、会場となったコミュニケーションプラザの見学会が実施されました。

### M1 笠井

私は分科会に現地対面で参加し、聴講しました。

私の研究対象は浸炭材であるため、本分科会の内容は非常に勉強になりました。特に浸炭材の疲労特性向上に関して、新たな視点を持つことができるようになり、大変有意義な時間となりました。また、ヤマハ発動機株式会社の太田様より企業視点からのお話を聞くことができました。そこから、私の研究の社会的意義や工業的重要性を改めて認識することができました。

また、分科会後の懇親会での先生方や企業の方との交流も、今後の研究方針を決めていくうえで大変有意義な時間となりました。

最後に、分科会参加の機会をくださった小茂鳥先生、懇親会でお世話になった政木先生、曙先生、武末先生にこの場を借りて御礼申し上げます。これからも研究活動に励んでいきたいと思えます。

### B4 青木

私は、分科会に対面で参加し、聴講しました。

私の卒業研究対象は浸炭処理材ではないのですが、同じく金属疲労に関する研究を行っているため、大変有意義な機会となりました。他大学の先生方が行っている最前線の研究を知ることができただけでなく、企業で研究開発を行っている方々の視点を知ることができました。特に、浸炭はその要因の複雑さから現象の解明が困難であり、各要因を切り分けて考えてアプローチする必要があり、実際に複数のアプローチを行い研究が進められている点や、エンジンの多くの部品に浸炭が採用されているが、部品には疲労特性だけが求められるわけではなく、多くの機能が要求されるため、疲労特性のみが向上しても部品に採用されるとは限らない点など、自分の研究につながる、新たな知見を得ることができました。

また、分科会後の懇親会での先生方や企業の方との交流も、今後の研究方針を決めていくうえで大変有意義な時間となりました。

最後に対面での分科会参加の機会を下くださった小茂鳥先生、懇親会でお世話になった方々にこの場を借りて御礼申し上げます。